

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 26

学校名・団体名	横浜市立戸部小学校
HPアドレス	http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tobe/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域と関わる「学級総合」で形成を目指す概念の 明確化
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、平成14年より、総合的な学習の時間の研究に取り組んできた。総合的な学習の時間には、子どもたち自身で学びの対象を選定する、いわゆる「学級総合」を行っている。その積み重ねを通して、子どもたち自身が総合的な学習の時間に対して「地域と関わり、地域を笑顔にする」「協力し合い、信頼し合うから、悩んでも解決できる」「自分で考えて判断する」「全力で最後まであきらめないで取り組む」等の肯定的なイメージをもち、そのような学びを実現しようとする主体的に取り組む姿勢が育っている。それは、単元構想、授業づくりの際に、職員が協働的に教材研究を行い、学習対象を通して子どもたちに学ばせたい「内容」や、探究的な学習活動を通して育てたい「資質や能力および態度」を、それぞれの意図するところを共通確認しながら分析した成果であると考えている。</p> <p>しかし、3月に示された新学習指導要領では、「内容」や「資質・能力」という言葉の位置づけに変更が見られた。特に、学級総合を行っている本校では、「探究課題」や「資質・能力」の中にある「概念」という新しいキーワードを正しく捉え、その目指すところに対する理解を深め、実践の中に活かしていくことが重要であると考えている。今年度の実践研究を通して、本校の総合的な学習の時間で子どもに形成したい概念とは何か、どのような探究課題を設定すればよいのか明らかにしていきたいと考えた。</p>	

<活動・研究報告> (時期、内容、成果や子どもたちへの効果などを記入。A4用紙1~2枚でおまとめください。)

<活動内容・時期>

○4~7月

- ・新学習指導要領に関する研修会や資料等をもとに、その趣旨や内容についての理解を深める
- ・過去の実践や、これまで活用してきた「本校の総合的な学習の時間で目指す子どもの姿(資質・能力系統表1)」や、「地域の視点(内容系列表)」をもとに、新学習指導要領の例示に沿って、本校の総合的な学習の時間の内容(資料)を整理する

○9~12月

- ・新しく整理した本校の総合的な学習の時間の内容に沿って指導計画の書式、位置付け方(資料2)を見直し実践に取り組む
- ・指導計画の検討、授業研究会等を通して、新しく整理した本校の総合的な学習の時間の内容が、実践に活用できるものになっているか、目指す子どもの姿として妥当か、検証する。

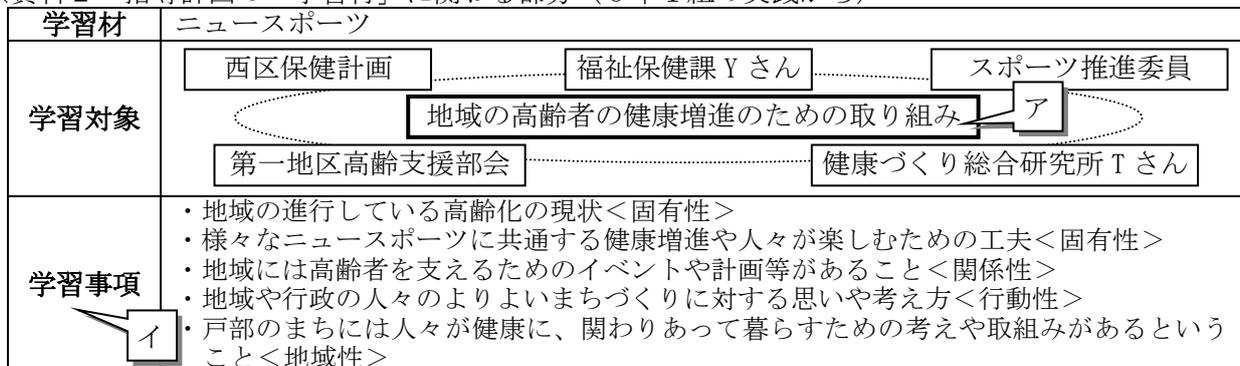
○1~3月

- ・推進委員会を中心に一年間の取組を振り返り、成果と課題を整理する。

※資料1 「本校の総合的な学習の時間の内容」(「探究課題」「知識、技能」の部分のみ抜粋)

学年	探究課題	事实的知識、概念
中学年	戸部のまちにある身近で具体的な「もの」「こと」のもつ意味や価値と、その対象を通して関わる戸部のまちの「ひと」の考えや行動等	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの「もの」「こと」には、面白さや楽しさ、豊かさ等、それぞれの対象ならではの特徴があるということ。<固有性…ならでは> ・身の回りの「もの」「こと」の特徴や現在の状況は、他の「もの」「こと」とのつながりの中で形成されたり、存在したりしている、ということ。<関係性…つながり> ・身の回りには、対象の魅力を積極的に楽しんだり、守ったり、伝えたり、広めたりするための「ひと」の知恵や技、取組がある、ということ。<行動性…いとなみ> ・戸部のまちには自分たちの生活や社会を楽しく豊かなものにするための「ひと」「もの」「こと」があふれている、ということ。<地域性…戸部のまち>
高学年	戸部のまちの「ひと」との関わりを通して見つけ直す、身近な「もの」「こと」のもつ意義や問題と、その発展や解決に向けた行動・取組等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会にある「もの」「こと」には、魅力や問題等、それぞれの対象ならではの特徴があるということ。<固有性…ならでは> ・地域社会にある「もの」「こと」の特徴や現在の状況は、他の「もの」「こと」と多岐に関わり合う中で、形成されたり、存在したりしている、ということ。<関係性…つながり> ・地域社会には、対象の魅力を保守、維持、発信したり、不安・問題・困難を解決、解消したりするための「ひと」の行動や取組がある、ということ。<行動性…いとなみ> ・戸部のまちには人々が関わり合いながら安心して豊かに暮らすことができるようにするための「ひと」「もの」「こと」があふれている、ということ。<地域性…戸部のまち>

※資料2 指導計画の「学習材」に関わる部分(6年1組の実践から)



ア：単元レベルで具体化した探究課題 イ：単元レベルで具体化した事实的知識・概念

<活動の成果と課題>

- ・本校では学級ごとに学習材を選定しているため、どの学級でも活用できるような汎用性をもたせる部分で難しさがあつた。しかし、学級総合では、学年間で学びが逆転するようなことが起こり得る危惧もあつたが、中学年と高学年の発達段階に応じて整理することで、中学年は①関わりが「こと」「もの」から「人」へとつながり、②肯定的な側面を重視して思いの実現を目指す一方で、高学年では①関わりが「ひと」から「こと」「もの」へとつながり、②場合によっては負の側面にも目を向けながら問題を解決する、という対象や活動の特性を明らかにすることができた。それによって、それぞれの学年に応じた単元構想が可能になった。
- ・事实的知識・概念については、子どもの中で対象に対する見方や考え方がどのように深まっていくか、ということを意識し、探究の過程や本校で大事にしていきたく人との関わりをもとに整理することによって、「深い学び」を実現するための視点をもつことができた。一方でこれまで例えば資料2のイについては「福祉」「健康」といった視点で整理していたが、そのような、何について深まっていくか学ぶのか具体的な視点が曖昧な実践も見られた。何について、どのように概念が形成されていくのか、ということをも、より明確にして実践できるような示し方、整理の仕方について、今後さらに検討していきたい。